

展示室4 発掘された秋田城



■上：久保台古墳出土 蕨手刀
■下：湯ノ沢F遺跡出土 太刀

久保台古墳は秋田市太平に位置する8世紀～9世紀後半の遺跡です。かつてこの土地からは勾玉も見つかり、調査では土師器や蕨手刀(柄の先端が早蕨の頭部に似た蝦夷の刀)が出土しており、この地域の有力者の墓であると考えられます。

湯ノ沢F遺跡は秋田市御所野台地南端に位置する9世紀末頃の土壌墓群で、40基ほどある墓は短期間で作られたことがわかっています。また、被葬者が俘囚(秋田城側についた蝦夷)であることを示す遺物や武器、それらの人々が秋田城と密接な関係にあった集団であることを示唆する遺物も出土しています。特に遺物の年代から元慶の乱(878)の際に亡くなった人々の墓の可能性が考えられています。この太刀は日本刀の成立過程を考える上で大変貴重な資料であり、秋田県指定有形文化財となっています。

他のみどころ

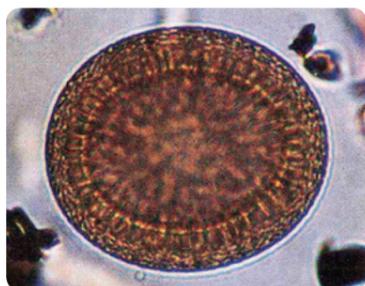
その他に、完形品では東日本唯一の和同開珎銀銭や、「ケガレ」を払う儀式に使用した人面墨書土器、古代水洗トイレの詳しい解説など、今回紹介出来なかった遺物は他にも多数あります。ぜひ一度ご来館ください。



■和同開珎銀銭



■人面墨書土器



■有鉤糸虫卵



■土器の展示

資料館には他にもたくさんおもしろい資料があるよ!



秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市立秋田城跡歴史資料館
【開館時間】午前9時～午後4時30分
【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)
【観覧料】一般…200円、団体(20名以上)…160円
高校生以下無料、年間観覧券…300円

〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
[TEL] 018-845-1837
[FAX] 018-845-1318
[E-Mail] ro-edac@city.akita.akita.jp
[URL] <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/default.htm>



あきまる 秋麻呂くん 通信



『秋田城』と、みんなの絆をつなぎたいから。

資料館の宝もの特集

平成28年7月29日 秋田城跡歴史資料館



秋麻呂くん

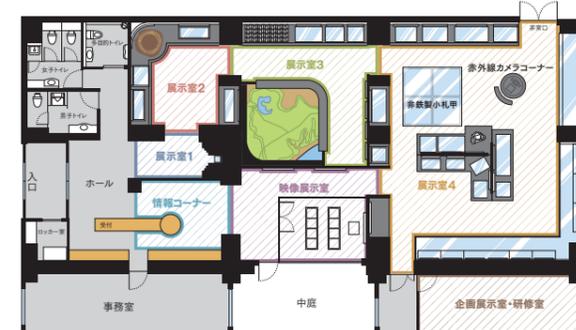
秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は、平成28年4月16日に秋田市寺内焼山に開館した「秋田城跡歴史資料館」について紹介します。

秋田城跡歴史資料館では昭和34～37年(1959～1962)に行われた国営発掘調査と、昭和47年(1972)から現在に至るまで秋田市が行っている発掘調査の成果を展示しています。



■資料館の外観

4つの展示室と映像展示室、漆紙文書や木簡の文字を解読する赤外線カメラコーナーもあります。



■資料館館内案内図

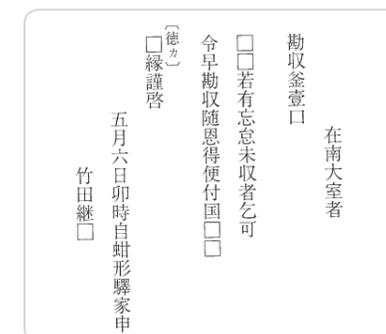
展示室1 漆紙文書の謎



■第10号漆紙文書



■第10号漆紙文書 赤外線カメラ画像



■第10号漆紙文書 積文

資料館に入っすぐのところに展示してある漆紙文書は、紙に漆が染みこんだおかげで腐ることがなく現代まで残ったものです。見た目は茶褐色や黒色をしており、まるで皮のように見えます。この文書は8世紀後半に竹田継□氏が秋田城に宛てた書状(手紙)であり、「蛭形の駅家」から秋田城へ出したものだとわかっています。「蛭形の駅家」は延喜式に記される駅家のひとつで、現在の秋田県にかほ市(旧象潟町)にあっ

たと考えられており、遺跡は見つかりませんが秋田城出土の10号漆紙文書から実在したことがわかります。

そのまま見ても文字を読み取るのは難しいですが、赤外線カメラを通してみると墨で書かれた部分がはっきりと浮かび上がってきます。資料館には全国初となる赤外線カメラを用いた古代文書と木簡の解読体験コーナーがあります。

在 南大室者
勘 収 釜 壹 口
□ 若 有 志 怠 未 取 者 乞 可
令 早 勘 収 隨 恩 得 便 付 国 □ □
(徳 也)
□ 緑 謹 啓
五 月 六 日 卯 時 自 蛭 形 驛 家 申
竹 田 継 □

展示室2 秋田城とは?秋田城を追う!



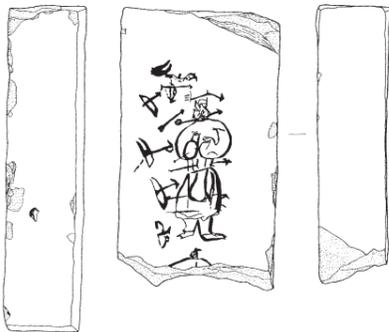
■井筒を組んで展示している様子、中には埴も入っています



■天平の木簡



■天平の井戸出土
墨書埴「龍」



■天平の井戸出土
墨書埴「人物と弓矢」

秋田城外の鶴ノ木地区に「天平の井戸」と呼んでいる井戸を復元していますが、展示室2では出土した6枚の材のうち5枚を実際に組み、井戸の中が見えるように展示しています。井戸の中からは「天平六年□月」とクギ書きされた木簡が見つかり、これが秋田城＝高清水岡を示す根拠となりました。

井戸からは他に埴と呼ばれるレンガ(建物や道の舗装に使用したもの)が見つかり、中には墨で「人物と弓矢」、「龍」が描かれているものもあります。「人物と弓矢」は悪霊を、「龍」は水の神を意味し、井戸に悪霊が入ってこないように、また、いつでも清い水が湧き続けるようにとの願いをこめたものと考えられます。

展示室3 古代秋田城あらわる!



■丸瓦と平瓦の実物展示の様子

秋田城から出土した瓦の実物を、屋根に葺かれていた様子を再現して展示しています。創建期の政庁を囲む築地塀と、外郭の築地塀に大量の瓦が葺かれていたことが調査の結果からわかっています。

秋田城では軒丸瓦が少量しか出土せず、軒平瓦はこれまで全く出土していないことから、この軒先に葺かれる2種類の瓦は使用されなかったものと考えられます。他の城柵官衙遺跡にはない珍しい葺き方です。瓦葺きの屋根は積雪地帯には不向きですが、創建期の秋田城では荘厳さを強調するため、瓦が葺かれました。軒丸瓦・軒平瓦が葺かれない理由は積雪対策の可能性がります。

秋田城から出土した瓦の中には「高水」の陽刻印があるものもあります。おそらく「高清水岡」の意味と考えられます。



■格子目文字瓦「高水」



■1/500スケールのジオラマ

展示室4 発掘された秋田城

役人の仕事



■第18号漆紙文書



■第18号漆紙文書 釈文

第18号漆紙文書

9世紀前半の漆紙文書で「和田公」や「小高野公」は秋田市河辺周辺に今も残る地名に由来した氏姓であると推定されています。「地名」+「公」は蝦夷系の人々に与えられた氏姓であり、律令国家が支配体制に組み込んだ蝦夷系の人々(俘囚)を把握するために作成したもので「俘囚計帳」と呼ばれるものと考えられます。こうした「俘囚計帳」は『続日本紀』などでその存在は知られていましたが、秋田城のものはその実例としては初めてのものです。



■第27号木簡赤外線カメラ画像と実測図

第27号木簡

「廣面郷」は秋田郡内にあった郷で、現在の秋田市広面にあたる考えられます。この木簡から秋田郡が8世紀末までに成立していたことがわかります。

秋田城や秋田城周辺にあったと思われる「草並神」への信仰、物資奉納の様子が読み取れます。



■役人の道具 硯・刀子・筆

兵士の仕事



■非鉄製小札甲床下展示の様子



■非鉄製小札甲の拡大



■復元した小札甲

『続日本紀』に鉄製甲冑に代わり革製の甲冑を作らせる指示や、蝦夷征討のために諸国に革製の甲冑二千領を作らせるように命じた内容の記述があります。秋田城の政庁域南東側から出土した非鉄製小札甲が、その蝦夷征討にともない作られた革製甲冑ではないかと考えられています。平安時代前期の非鉄製小札甲は全国でも秋田城以外からは見つかりません。当時の様子を伝える大変貴重な資料です。

資料館では遺跡から周りの土ごと切り取ってきた小札甲を出土状況そのままに床下にはめ込んでいるので、ガラス越しに上からじっくりとご覧いただくことができます。

